

3. 2017 年度活動概要

2017 年度は「英語授業学」とはという命題のもと、授業学に包括されるカテゴリーの考察とそのいくつかの要素に焦点を当てた研究を行いました。

最も多くの時間を割いたのは「授業の内省と改善」及び「教師の授業力」に関する考察でした。

特に多くの教師が指導に困っている英語の意味順指導（京都大学 田地野 彰教授）と文法指導（関西外国語大学 岡田伸夫教授）について講演いただき新しい視点から指導する示唆を与えていただきました。さらに、大学英語教師の中でも教育が専門でない場合、学ぶ機会がない第二言語習得理論と学習の定着（神戸大学 横川博一教授）の観点からの講演にて学ばせていただきました。

また、授業学の研究の上で欠かせない「教材」分析と指導法について授業学（関東）研究会と共同研究し、「教科書を教える」ことの問題点と使用する教員に求められる指導力について考察し国際大会において発信しました。

2017 年度は授業学（関西）研究会設立 3 年目であり、代表が 2 年で交代する（関西支部の規定による）節目の年であるためため活動メンバーと 2 年間の研究を振り返り「授業学と私 劇的 before & after」と題して今後の研究課題を見出す目的で検討しました。メンバーから寄せられた言葉は、「日々の授業に大いに参考になる」、「指導法の幅が広がった」、「大学院にて学ぶ機会となった」など活動を肯定していただく声が多く寄せられた。課題としては 2 年間代表（関西外国語大学短期大学部 村上裕美）を務めさせていただき、授業学の深く広い研究領域のまだまだごく一部しか研究できていないことを反省しており、3 年目以降新代表（関西外国語大学 岡田伸夫教授）のもと研究の領域を広げて行きます。